



1. 夏休みが終わりました。

暑かった夏休みが明け、日焼けした子どもたちの元気な笑顔が学校に戻ってきました。1学期から引き続き、朝、校門で大きな声であいさつをしてくれる子どもが多く、充実した夏休みを過ごした様子が伝わってきました。

2学期は、1年間で一番教育活動が充実する期間であり、子どもたちのさらなる飛躍の時です。文化祭や職業体験、実力テストなど、授業や部活動に加えて学校行事が数多くあります。実りの秋となりますよう、教職員一同力を合わせて取り組んでまいります。

2. 9月は「いじめ未然防止啓発月間」です。

枚方市では、9月を「いじめ未然防止啓発月間」として、いじめの未然防止及び早期発見をめざした取組を推進しています。本校におきましても、「枚方市立招提中学校いじめ防止基本方針」に則り、いじめの未然防止及び早期発見、早期対応に努めているところです。

いじめは、その子どもの将来にわたって内面を深く傷つけるものであり、子どもの健全な成長に影響を及ぼす、まさに人権にかかわる重大な問題です。本校では、教育活動のすべてにおいて生命や人権を大切にする精神を貫くことや、教職員自身が、子どもを一人ひとり多様な個性を持つかけがえのない存在として尊重し、子どもの人格のすこやかな発達を支援するという立場で指導を徹底してまいります。

3. フランス・パリでオリンピックが開催されました。

2024年7月26日から8月11日まで、フランス・パリでオリンピックが開催され、ブレイキンなど4つの追加競技を含む32競技329種目が実施されました。スケートボード女子ストリートでは、吉沢 恋(よしぎわ ここ)選手(14才)が金メダル、赤間 凜音(あかま りず)選手(15才)が銀メダルを獲得し、東京2020オリンピックにおいても、大阪府松原市の西谷 椛(にしや もみじ)選手(当時15才)が金メダルを獲得しています。このように、子どもたちと同世代の若者の活躍がとても眩しく、注目を浴びていたと思います。吉沢恋(よしぎわ ここ)選手は、フランスからの帰国後の報告会で、会場の子どものからの「どうしたらうまくなれるか」の質問に対して、「自分はすごい才能があるわけではないが、反復練習でうまくなった。」「何かひとつに熱中して頑張ったら、活躍できると思う。」と答えていました。この言葉から、熱中できるものや夢中になれるものを持つこと、苦しくても継続する力、経験したことに対して挑戦する力の大切さを改めて学ぶことができました。本校の子どもたちもオリンピックで活躍した同世代の若者たちから何かを学ぶことができたのではないのでしょうか。

この夏休み期間中、多くの子どもたちは、部活動や勉強会などに取り組んでいました。一方、“夏バテ”ではないにしても、「暑くて何もやる気が出ない」、「夏休みの宿題に手がつかない」、と感じた人もいたかも知れません。面倒な物事を避けて通れるのならそれに越したことはありませんが、問題の解決を先送りにすればするほど、心は重くなっていきます。江戸時代後期の農政家である二宮尊徳(にのみやたかのりくそんとく)は、『遠きをはかる者は富み、近きをはかる者は貧す』という言葉を残しました。日常にある小さなやるべきことの一つ一つを自分の将来(進路)に結び付けることは難しいかも知れませんが、もし、「やる気が出ない、でも、このままではいけない」と思ったら、現状を打開するために、まずは、自分ができそうな小さなことからでも着手してみましよう。その小さなことを積み重ねいくと、少しずつでも前に進むことができると思います。